

『迎春便り』

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

平成最後となる年が明けました。本年もどうぞよろしくお祝い申し上げます。今年も、今のところ積雪も余り多くなく、過ごしやすい冬を迎えておりますが、あとふた月、雪と仲良くして過ごしたいものです。

さて、後志教育研修センター調査研究事業報告会を平成31年1月9日（水曜日）、センターを会場にして開催されました。今年も、昨年度の倍近い55名の参加を見ることができ、少しずつ調査研究事業にも各学校の関心が高まりつつあることを実感しました。報告会の中では、野上義秀 教育局次長と高橋武志 後志町村教育委員会協議会教育長部会長にご祝辞を賜り、センター所員の労苦をねぎらって頂きました。

学習指導研究委員会では、『授業力の向上と校内研究の活性化に関わる支援の在り方～対話的な学びのある授業づくりの促進を通して～』を研究主題として、3年次研究の2年次目の研究内容を堤 洋平委員長と清水栄治副委員長が報告を致しました。また、社会教育研究委員会では『地方創生の時代における社会教育行政の在り方について～学びと活動の循環を促すための方策について～』を研究主題に掲げ、土門啓二委員長が報告を致しました。

研究協議の中では、実践的研究や授業検証をしていることの評価や校内研修のパッケージ化への評価をいただきました。特に、主体的・対話的で深い学びを進めるには、単元構成を含んだ研究が大切であることの示唆も与えてもらいました。報告会のまとめとして、教育局の鈴木主任指導主事と河村社会教育指導班主査より助言をもらい、特に社会教育研究委員会の中で発表された「学び」と「活動の」スパイラルの循環イメージは、学校教育の中でも応用できることを指摘していただきました。

今回頂きました、ご意見等は今後の研究委員会で検討し、最終的には、3月末の研究紀要として発刊していく運びとなります。尚、当日発表の研究委員会の資料はHPに添付してありますので、ご活用して頂けると幸いです。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い致します。

終わりになりますが、現在、平成31年度研修講座に向けて、講師陣を決定し、開催要項等を作成段階に入っております。3月末には、研修講座申込みに係わる手続き等の文書が届きますので、新年度も奮って受講して下さいようお願い申し上げます。